

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.42
姫はこうして
64kgに

私は近藤 姫。女の子がどうしても欲しいお父ちゃんが頑張って、4人目にしてやっとできた子。お父ちゃんがこの子はお姫様のような美しい子になると授けてくれた私の名。高校生の頃、友達で保健委員の子がおって、いろんな健康談義を聞かされたけど、私の標準体重は52kgなんじゃと。標準体重言われてもようわからんけど、52kgゆうたらアウトやわ。何ほ食べても50kgを超えることはなかったんよ。友達とバイキングに行っても元を取るまで食べれたし、デザートは別腹でいくらでもおなかに入った。

お父ちゃんも悪いんやで。私が未っ子でかわいいんか知らんけど、何かにつけてケーキじゃ、クッキーじゃ、アイスじゃ買ってきては、「おい、姫。今日はお前が小学生の時に表彰台に立った日の記念日じゃ。」「今日は学期末試験で100番内に入った記

念日じゃ。」いうて私を喜ばそう思うて手を変え品を変え次から次といろんな物を買ってきては私に食べさせるから二十歳のころには標準体重に到達してしもたんやで。

ちょっとふっくらしてきたから流石にこれじゃいかんやろと、ダイエットにチャレンジして4kg減ったので、「頑張った自分にご褒美」「イエイ！」なんてうかつに言っていたら気が付けばリバウンドをしていた。

「姫。なんか最近、ぽっちゃりしてきてない？」同じ弓道部の千明から言われた。「そうかな〜？」と、とぼけてみたけど、心の中では「やっぱり！」とちょっと焦っていた。

「今度、駅前のホテルでケーキバイキングあるんだって。行かない？今なら20% OFFなんだって。」

「え〜20%！行く、行く。」

大学を卒業するころには54kg。「女の子は体型重視！」と気合を入れたけど、結局はスイーツの魅力に負け、友達の甘い誘惑に負け、つまりは「バイキングに行けば元を取らなきゃ損・損！」と阿波踊りみたいなリズムに乗せられて気が付けば64kg。

今日は、乳癌と早とちりして、癌センターに飛び込んでいた。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一